

ビジネスプラン 応援事業

起業環境醸成・発掘育成事業

採択事業者の紹介

- 01 有限会社高橋造園土木(美郷町)
日本の庭園技術と秋田の地域資源を海外へ輸出
- 02 たからぼプロデュース合同会社(大仙市)
秋田の農産物のBtoC事業の新規販路確立と
BtoB事業の新規海外販路への拡大
- 03 World Products X(三種町)
日本と海外のサステナブルファッションを秋田
から発信
- 04 まごころ弁当横手店(横手市)
高齢者向け栄養バランスを考えた安心・安全な
弁当の販売・配達 ※ご都合により報告会は欠席

あきた企業活性化センターでは、新たに起業する方や、創業して間もない方の有望なビジネスプランに対して、その成長を着実に支援するため、令和2年度から5年度にかけて、伴走型の創業起業支援(起業環境醸成・発掘育成事業)を行いました。最終年度では、本事業に採択された事業者の持続的な発展を目的に、これまでの取り組みや成果、今後の事業計画の発表およびPRする場として、先輩起業家、外部アドバイザー、金融機関、商工団体等の関係者を交えて、最終報告会を開催しました。報告会では、出席者から事業者の取り組みに対するアイデアや助言、激励メッセージが寄せられ、活発な意見交換が行われました。

本コーナーでは、報告会で発表した事業者の事業内容や製品・サービスをご紹介します。



[ビジネスプラン応援事業最終報告会]

日時 令和6年1月30日 13:30~15:00
場所 ANAクラウンプラザホテル秋田
参加人数 採択事業者3者(1者欠席)、支援者等23名

02 たからぼプロデュース合同会社 大仙市

代表 鈴木 健一 さん



HP



[採択テーマ]

秋田の農産物のBtoC事業の新規販路確立と BtoB事業の新規海外販路への拡大

たからぼプロデュース合同会社は、農産加工品の企画販売会社。製造工場などは持たず製造ができる企業に発注して作ってもらうスタイル。自由な発想で企画、商品化し、効率よく世の中に広げていきたいという考えを持っている。コロナが始まる2か月前という、世の中から見放されたようなタイミングでの起業となってしまった。

コロナ禍ではペットを飼う人が増え、ペット用品の需要が増えた。ペット向けの納豆のフリーズドライやペット用ふりかけなどの需要があるのではと商品開発に取り組むタイミングで、この事業を知り、応募した。

事業の軸は2つ。ひとつはペット向けの商品でBtoCのもの。シニア犬向けとして腸活をキーワードに、納豆のフリーズドライやパウダー、枝豆や米ぬかを使った商品を開発。メルカリショップや自社のECサイト、ふるさと納税などの仕組みを活用。補助金を活用したSNS広告により、周知を広げた。根強いリピーターがいる商品となった。もうひとつは、いぶりがっこの海外向け業務用商品。3月上旬に「世界からあつまる食の展示会(Foodex Japan)」へ出展したところ、国内外のバイヤーから「ユニーク」「ナイスアイデア」と好評を博し、実際にサンプルを送るなど販路拡大への期待が高まっている。今後も継続した売り込みを続けていきたい。

たからぼプロデュース合同会社
〒014-0024
大仙市大曲中通町7-15
コレクトビル2F
TEL.090-6623-4147
<https://takalabopro.com/>



秋田の発酵食品を使った犬猫用のふりかけ。
納豆シリーズが看板商品。

01 有限会社高橋造園土木 美郷町

代表取締役/樹木医 藤岡 誠人 さん



HP



[採択テーマ]

日本の庭園技術と秋田の地域資源を海外へ輸出

このテーマを掲げた背景には、庭を作る人が少なくなったことが挙げられる。庭の価値観が変わりつつあり、今ある庭を壊してカーポートを作りたいなど、庭造りの仕事越来越少。それにより、庭石・灯籠などを処分するため、造園業者に持ち込まれるケースが増えてきた。日本庭園を作る場所が国内にあまりない、というのが今の造園業の状況である。秋田には「烏海石」という地域資源がある。業界では有名な素材だが、前述したとおり国内での需要がない。そこで、台湾の富裕層をターゲットとした事業展開を模索するため、本事業に申請を行い、支援を受けた。

まずは台湾の方がWebサイトを見られるように中国語対応のサイトを作成し、中国語のパンフレットを作成した。また、中国語の資料を作成し、オンラインで商談を行った。中国語翻訳をつけたビデオカタログを作成し、国内材料仕入れ調査なども実施し、ビジネスパートナーを見つけることもできた。結果として2023年5月に台湾で剪定作業を実施することができた。まだまだ課題はあるが、台湾での樹木医講習会や造園技術講習などを企画・実施する予定があるほか、以前受注した台湾での案件の維持管理の再受注に向けた営業、庭園作成受注に向けての営業を、現地代理人と行っていくなど、積極的に活動を続けていく予定である。日本が誇る造園技術や造園文化が、日本のみならず世界で活躍できるのを目標に事業を推進していきたい。



新しい庭造りやリガーデン(庭の模様替え)等、
庭のことなら何でも対応

有限会社高橋造園土木
〒019-1404
美郷町六郷字熊野226-1
TEL.0187-84-2375
<https://www.tzd.jp/japan/>

03 World Products X(クロス) 三種町

代表 山田 珠美 さん



HP

[採択テーマ]

日本と海外のサステナブルファッションを秋田から発信



動物がモチーフとなったアップサイクル製品の
Tシャツやトレーナー

令和3年時点で、国内で家庭から手放される衣類は約75万トン、うち約50万トンがゴミとして廃棄されている。製品そのものを素材として使い、新たに製品として作り変え価値を上げることをアップサイクルと呼ぶ。日本では昔は当たり前に行われていた。縫製会社の経営に携わるなかで、再生繊維を使ったり、発注数をコントロールして在庫を作りすぎないといった他社の取組みに刺激を受け、生産に携わる一人として環境に負荷をかけず、縫製技術を活かせるアップサイクル商品を展開したいと考えた。コロナ禍で様々な活動がオンラインで参加できるようになり、そのつながりでラオスの織子たちの仕事が減っている現状を知った。昔ながらの手法で作られた織物を使い、商品展開することで素晴らしい商品を作り、現地の人々を応援することが出来ると考え、本事業に応募をした。

コロナの影響もあり、実際にラオスの織物を購入することは難しかったため、海外の生地として、アフリカンプリント生地を選択。アフリカンプリント生地をモチーフに使用してデッドストック品や古着などに付加価値を付けた商品を製作した。アップサイクルを多くの人に知ってもらうためマルシェや展示会などでPRを行った。SNSを立ち上げたり、ECサイトを作ってWebサイトと連携するなど周知に努めた。PRは経験がなかったため、補助金を活用してさまざまな体験が出来たと感謝している。これからは本事業で学んだことを活かし、発信できる縫製会社を目指していきたいと考えている。



World Products X
〒018-2407
三種町浜田字村上1
TEL.090-4314-6737
<http://world-products-x-upcycle-akita.net/>